

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

一人ひとりが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となるために

- 1 自ら考え行動し、課題を解決する力を備え、多様な人と協働できる生徒を育てる。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

## 2 中期的目標

## 1 教育の方針

興味・関心に応じた深い学び、多様な学びを展開し、思考力、判断力、表現力を身につけ、コミュニケーション能力を高める教育を推進する。

## 2 確かな学力の定着と学びの深化

(1) カリキュラム・マネジメントを進める委員会を中心に、新学習指導要領などで求められる力を育てる。

ア 各教科等の内容を相互の関係でとらえ、3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるように総合学科としてのカリキュラムを実施する。

イ 新課程に対応した授業、評価の研究、実践を重ね、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する。

(2) 授業改善に取り組む。主体的・対話的で深い学びを通し、思考力・判断力・表現力を高める。

ア わかりやすい授業を行う。

イ 生徒が考える授業を行う。(思考力、判断力)

ウ 授業における、生徒同士の活動、教員との対話を大切に。(表現力)

エ 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせる。

オ 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。

そのために

カ 公開授業、研究授業、授業見学、研修、授業アンケートなどを活用した授業改善に組織的に取り組む。

キ 一斉学習、個別学習や協働学習をバランスよく組み合わせ、学びの深化をはかる。

ク 1人1台端末をはじめとするICTを効果的に取り入れた授業の研究を進める。

ケ 生徒自身が自ら学び、授業以外でも学習できるように取り組む。

※授業アンケートにおける「興味関心が持てた」「知識技能が身についた」の第一評価をR7年度に50%以上(R4:47,50/R3:46,48/R2:46,47)にする。

※学校教育自己診断(生徒向け)の「教え方に工夫をしている先生が多い」の第一評価をR7年度に40%以上(R4:30/R3:29/R2:33)にする。

※学校教育自己診断(生徒向け)の「学校は1人1台端末を有効に活用している」の第一評価をR7年度に50%以上にする。

備考 評価の基準

第一評価	よくあてはまる
第二評価	ややあてはまる
第三評価	あまりあてはまらない
第四評価	全くあてはまらない

## 3 生徒の意欲を高める仕組みづくり

(1) 効力感、達成感の育成

ア 教科や教科横断的な行事などの中で自己表現をしたり、認められたりする場を広げる。

イ 教科学習と学校行事、部活動等の活動との両立を支援するとともにR7年度に部活動参加率70%以上を維持する。(R4:75 / R3:74 / 2:74)。

ウ 小学校、中学校、大学との連携を深める。また地域ボランティアなどの貢献活動を継続する。

エ 生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。

(2) キャリア教育の推進

ア 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。

イ 日々の学習、フィールドでの発表や研修などを通して、自分の進路や生き方を考えさせる。

(3) 進路実現の支援: 4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率をR7年度に90%以上にする。(R4:95 / R3:97 / R2:84)

就職希望者の就職率をR7年度も100%を維持する。(R4:100 / R2:100 / R3:100)

(4) 資格取得の推進

※学校教育自己診断(生徒向け)で「授業で発表する機会がある」の第一評価を、R7年度までに45%にする。(R4:40 / R3:40 / R2:43)

「ガイダンスは分かりやすい」の否定的評価(第三、四評価の合計)を、R7年度に10%以下とする。(R4:14 / R3:10 / R2:9)

「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価が、R6年度に50%以上を維持している。(R4:59 / R3:62 / R2:71)

## 4 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成する

ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ 生徒が自分で判断して自らの行動を律することができるようにする。

(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 課題のある生徒についてSC、SSWと緊密に連携し、生徒情報交換会、ケース会議等を実施し、教員、養護教諭等が協力しながら指導方針を明示していく。

(3) 保護者・地域・教育関係機関との連携をあらゆる場面で充実させる。

(4) 働き方改革

※学校教育自己診断(保護者・生徒向け)での「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価(第三、四評価の合計)をR7年度までに、生徒向け15%以下(R4:31 / R3:29 / R2:29)、保護者向け15%以下(R4:20 / R3:22 / R2:19)にする。

## 5 グローバル人材の育成

(1) 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒の指導

ア 出身中学、母語指導者等との密接な情報交換を日常的に行い、渡日・外国人生徒の指導を行う。

イ 日本人生徒との交流の促進

(2) 国際交流の推進 ア 生徒の短期語学研修の実施（英語圏、中国語圏、韓国語圏） イ 外国の学校との相互交流の実施（訪問の受け入れやオンラインによる交流の実施） ※コロナ感染症拡大がおさまれば、語学研修を再開する（年1回行い、中期的に参加者10人程度（R1:19 / R2:0 / R3:0）をめやすとする）。
---

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

## 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R4年度値〕	
2 確かな学力の定着と学びの深化	(1) 新カリキュラム等の実施  (2) 各教科を中心とした授業改善  (3) 主体的、対話的で深い学びをめざす	ア カリキュラム・マネジメントをすすめ観点別評価の確立に向け実践を重ねる。  ア・わかりやすい授業を行う。 ・生徒が考える授業を行う。 ・生徒同士、教員とのコミュニケーションを大切にする授業を行う。 ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。 ・生徒自身の発表の機会を設ける等授業形態の工夫をする  ア・ICTなどの活用 ・1人1台端末を有効に活用し、プレゼンテーションソフトや学習支援クラウドサービスを有効に活用した授業を行う  イ 教員相互の授業見学と研修 ・教員相互に授業見学を行い、授業力を高める。また研修の機会を有効に活用する  ウ 自主的な学習の推進 ・授業以外の学習時間を前年比10%以上の増加を図る。そのために、自主的に取り組める課題を計画的に提示するなどして学習意欲を喚起する ・読書習慣を身につける。そのために、国語科などを中心として本を読むことにつながる課題等を設定する。	ア・カリキュラム・マネジメントに関する委員会15回〔11回〕 ・職員研修1回以上〔1回〕 ・職員会議冒頭ミニ研修5回以上〔3回〕  ア・授業アンケートの「興味関心が持てた」の第一評価を48%〔47%〕とする。 ・「知識技能が身についた」の第一評価を50%〔50%〕を維持する  ・授業アンケートの「授業で発表する機会がある」の第一評価と第二評価の合計90%〔93%〕を維持する  ア・生徒自己診断「教え方を工夫している先生が多い」の第一評価30%以上〔30%〕を維持する。 ・生徒自己診断の「学校は1人1台端末を有効に活用している」の第一評価と第二評価の計が65%以上を維持する〔85%〕  イ 教員自己診断「各教科において、生徒の実態に応じて指導方法の工夫・改善が行われている」の第一評価と第二評価の計90%以上  ウ・授業以外の学習時間を 1年生60分以上〔平日53分〕 2年生30分以上〔平日29分〕にする  ・1年生対象に3学期にアンケートを行い、1年間で一冊以上の本を読んだ生徒が80%以上となるようにする〔81%〕	
3 生徒の意欲を高める仕組みづくり	(1) 効力感、達成感の育成  (2) キャリア教育の推進	ア 部活動参加率を上げる。部活動の説明会などを充実させ、全学年の生徒の部活動の加入率を高める。  イ 地域連携 地域の小中学校への出前授業や、他の機関との連携、オンラインを含めた交流を通して地域に根差した学校とする。	ア 部活動加入率70%以上を維持する〔75%〕  イ ・コロナ感染状況を見極めつつ、3つ以上の交流を実施する。 ・交流後に実施する事後アンケートで、満足度70%以上となるような取り組みを行う  ア 自己診断「進路や生き方を考える機会がある」の第一評価50%以上を維持する〔59%〕  イ 生徒が選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実する。  イ 自己診断「ガイダンスはわかりやすい」の否定的評価（第三、四評価の合計）10%以下にする〔14%〕	

## 府立門真なみはや高等学校

	(3) 進路実現の支援	ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。	ア 3学年当初の四年制大学進学希望者の四年制大学への進学率80%以上を維持する〔84%〕 就職内定率100%を維持する〔100%〕	
	(4) 資格取得の推進	ア 資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。	ア 受験者数の増加 ・漢字検定受験者数 60名以上を維持〔106名〕 ・英語検定準2級以上(CEFR A2以上)の生徒数100名以上を維持する〔186名〕 ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率(パソコン検定など80%以上維持)〔100%〕	
4 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり	(1) 生徒の規範意識の醸成	ア 規範意識を持たせる。生徒の思いを理解しつつ指導を進め、生徒が指導の目的を理解し納得感を得られるようにする。  イ 情報リテラシーの育成。特にSNSの利用について、研修や授業を通してリテラシーを高める。	ア・自己診断「制服・遅刻・頭髪指導は適切である。」第一評価を30%以上〔26%〕または肯定的評価70%以上〔68%〕にする ・自己診断「先生の指導は納得できる」第一評価を40%以上〔26%〕または肯定的評価70%以上〔69%〕にする  イ 自己診断「情報機器やSNSを使用する際にルールを守っている」の第一評価50%以上〔72%〕を維持する	
	(2) 課題のある(困り感のある)生徒の支援	ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会の開催。  イ SC、SSWなどの外部人材を活用した校内組織をつくる。  ウ 生徒相談室を充実させるなど相談体制の充実を図る ・「保健だより」等を活用した窓口の周知、教職員からの声掛けを継続する。	ア 支援・教育相談委員会を含めた生徒情報交換会を7回以上開催〔9回〕  イ SC、SSWを構成メンバーとした会議を2回以上開催する〔新規〕  ウ 自己診断(保護者・生徒向け)「何かあれば相談できる先生がいる」の否定的評価(第三、四評価の合計)を、生徒向け25%以下にする〔31%〕 保護者向け20%以下を維持する〔20%〕	
	(3) 保護者連携・地域連携の一層の推進	ア 保護者、地域、中学校等へ本校の取り組みを積極的に発信する  イ 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。	ア HPのアクセス数を1年間で50000以上とする。〔新規〕  イ 保護者向け自己診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の第一評価を24%にする〔21%〕	
	(4) 働き方改革	ア 会議資料、小テスト等教材でのペーパーレス化を進める。  イ・各種アンケートにおいて、フォーム作成ツールを活用する。 ・メール配信サービスを活用し効率的に欠席連絡を把握する。	ア 会議資料の電子化を進め、ペーパーレス会議を5回以上おこなう〔3回〕  イ フォーム作成ツールを活用したアンケートを5回以上実施する	

5 グローバル人材の育成	(1) 日本語指導が必要な帰国生徒外国人生徒の指導	ア 合格発表後、早期からの高校生活支援を継続するとともに一般選抜合格生徒も含めた生徒間交流を促進する	ア 外国にルーツのある生徒達等による文化発表会等での自国文化の紹介を年2回実施する
	(2) 国際交流の推進	ア 生徒の短期語学研修の充実  イ 外国の学校との相互交流の実施	ア 参加者5名程度を当面の目標として、短期語学研修を再開する。 〔0人 コロナ禍のため〕 ひきつづき、海外に渡航できない生徒も参加が可能である国内での語学研修を実施する〔1回〕  イ 1校以上の交流を受け入れる 〔0校 コロナ禍のため〕 コロナ等で受け入れができない場合はオンラインによる交流を複数回実施する〔2回。韓国、中国〕